

JAAF  
MIE



# 三重陸協会報

第13号

一般財団法人  
三重陸上競技協会

事務局・〒516-0023 伊勢市宇治館町510 (三重交通Gスポーツの杜伊勢内) TEL 0596-22-8890・FAX 0596-63-5337 URL:http://mierk.jp/ MAIL:info@mierk.jp

## ごあいさつ

三重陸上競技協会 会長 田村憲久



ポーツイベントが久しぶりに戻ってきて三重県を活性化してくれました。

また、悲願の三重県初のフルマラソンの大会である「みえ松阪マラソン」が、今年度ついに開催することができました。み

今年度は「3年ぶり」という言葉があらゆる場面で聞かれました。少しずつではありますが、以前の日常が戻りつつあります。陸上競技についても、昨年、一昨年と中止になってしまった

え松阪マラソンはコロナ前から構想され、開催をしようとした矢先に、新型コロナウイルスが感染拡大し、毎年中止となってしまいました。

国体が栃木県で開催されました。三重県選手団は女子5000m競歩の園田世玲奈選手の優勝を

当日は長年にわたりマラソン界を牽引し続けている、三重県出身の瀬古利彦さん、野口みずきさんをゲストに迎え、川内優輝選手を始めとする招待選手をお招きし、盛大に開催することができました。参加して頂いたランナーの皆さま、運営にご尽力頂いた大会関係者の皆さま、

始め、多くの選手が入賞し、昨年の三重国体中止という悔しさを吹き飛ばしてくれるような活躍をしてくださいました。都道府県対抗男子駅伝も昨年は直前で中止が決まりましたが、今年は無事開催されました。中学生、高校生の若い力が躍動し、順位を押し上げてくれました。年末の

まだまだ予断を許さない世の中ではありますが、選手が最大限の力を発揮できるような場を提供していきたいと考えています。今後益々の三重県の陸上競技の発展を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

全国中学駅伝、全国高校駅伝からさらに活躍の場を広げ、次のステップへと進んでくれるでしょう。

本県においても美し国三重市町対抗駅伝が3年ぶりに開催され、県全体が1つになれるス

## 新時代に向けて

三重陸上競技協会 専務理事 松澤 二一



2009年名古屋前理事長より

命を受けて早、十四年が過ぎました。任意団体から法人化へ一歩踏み出し現在の三重陸上競技協会になりました。移行期はどの様にして運営していけば良いかわからないままで踏み出しましたが、理事会が協会運営に拘ることにより民主的な協会運営になってきたのではないのでしょうか。

さて、今思い返せば、昭和四十年代の三重の陸上競技は、(知っている方はおられると思いますが)東海地区でもダントツに弱い県で、当時の東海は、「東海制する者、全国を制す」の時代で、女子は本県の松阪女子(現 三重高校)が全国大会でも好成績を残していましたが、男子においては全国へ出場することが難しい時代でした。どの種目においても決勝に進出ことさえ難しく、インターハイに駒を進めることは非常に少なかった事を覚えています。そのような時代から見れば、四十八年三重県開催の全国高校総体・

五十年三重国体での好成績を残すことを想像することが出来たでしょうか。現在のよう三重県が全国でも結果を残せるよう向上と練習方法の改善等によるものと思います。それにより三重県内で十分に選手の強化育成出来、信頼してもらえる指導者が増えたことで、県外への選手の流出がなくなってきました。しかし、私たちの取り巻く環境は徐々に変化してきました。中学・高校の教員の校務の増加。ほぼ一年で開催される大会や記録会。学校現場はブラック企業と呼ばれる今日この頃です。年中休みの無い生活は余裕がなくなり万年疲労困憊になっているのではないのでしょうか。

日市市の中学生の有償での陸上スクールを開催いたします。現在の生徒数の多い四日市の中学生の競技力の低下は明らかです。そのためにも、モデルケースとして選手育成と強化をすべく取り組んでいきます。いろいろ考え方はあるかもしれませんが、「発育・発達」に応じた選手強化を目指し、一刻も早く行動に移すことが必要だと考えています。ご支援・ご協力をよろしくお願いたします。

中学・高校も学校間の競技力の差が徐々に大きくなり、小学生で指導して頂いた選手も中学校には陸上部がなく、他の競技種目に変更せざるを得ない状況です。現在、四日市市内では陸上部のある中学校は五割を割っており、これからの陸上競技を続けてくれる選手の減少は明らかです。また、中学で頑張ってきた選手も「どの学校へ進めば行けば良いのか」とよく保護者から質問されます。そのための解決策になるどうか判りませんが、四月から三重陸協による四

コロナによる「とこわか国体」とこわか大会」の開催を中止となりましたが、三重県スポーツ協会では十年以内の国体開催に向けて取り組んでいます。国体中止後、六年以内の国体開催の断念を早々に現知事が決定したため、四十五・六年後が国体の開催順となります。三重県全体のスポーツ競技力を落とす事無く、また、陸上競技は今以上に選手強化に鋭意取り組んでいきます。三重国体「総合優勝」に向けて頑張ってきましたが、次回三重国体への道筋は後任の専務理事に託し、今年をもって職を辞したいと思っております。次の国体に向け、新しい組織で次の三重陸協を組織してほしいと思

# 各地区陸協報告

## 桑員陸協

昨年に続き、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながらの運営となりました。

本年1月にはコロナ禍3年目でようやく東員ロードレース大会が開催できたことは大変喜ばしく思います。一般道を活用しての競技実施が難しくなるなか、いなべ警察署をはじめとする多くの関係者の方にご協力をいただき、ロードレースを終了することができました。ロードレースを最後に令和4年度の全大会を終了することができました。

さて、桑員地区内には陸上部のない中学校が多くあり、小学生のチーム等の指導者が継続して中学生を指導してもらおうと、近隣の陸上部のある学校の教員が他校の指導をする等、陸上部の無い学校の選手の居場所づくりを提供し育成に努めています。その中で、第34回全国高等学校駅伝競走大会に鈴鹿高校の選手として都大路を駆け抜けた選手は、中学校に陸上部がなく、地域主体による地域の指導者により3年間を過ごし、高校でも活躍する選手となっています。このような地道な活動の結果、高校に入り本格的に陸上競技を行う選手が多くなっていることは大変喜ばしく思います。今後も一人で

も多くの選手を発掘していきたいと考えております。

また、陸上部のある中学校でも課題があり、特に指導者の育成が急務となっております。昨年度も課題としていた、陸上指導者の指導方法の習得を考え、本年度初めて、中学生の指導者の育成及び選手への競技力向上を目指し、地区陸協強化部主体の強化練習会を実施しました。学校における日々の基礎練習が強化に繋がると考え、練習会では、中学校の指導者及び生徒約80名が集まり、平時から行える基礎的な練習方法を学び、参加した教員も普段学校で実施している練習と比較しながら、一生懸命メモを取るなど、積極的に指導方法を学ぶ姿が見受けられました。また、選手も他校の生徒と合同で練習するなか、それぞれの意識を高める良い機会となったと感じました。今後も継続してこのような機会を設けていき、地域全体の底上げをし、更なる強化に努めていきたいと考えております。

## 三泗陸協

ていきたいと考えています。また、少子化が進むなか1人でも多く陸上競技者を増やす為に、さまざまな手法を使い、地区陸協として積極的に取り組んでいき、今後の強化に繋げていきたいと思

います。コロナウイルス感染症が終息したわけではありませんが、本年度は以前とほぼ同様の競技会を開催することが出来ました。ただ、参加人数や観客数の制限等、感染症対策を優先して実施することに変わりはなく、正直なところやや寂しさを感ぜさせる大会も少なくありませんでした。来年度は活気のある競技会を目指して、可能であれば、実施種目や一人当たりの参加種目数等をコロナウイルス感染症以前の時期と同等レベルに戻す計画です。

具体的には、一人1種目に制限していたものをほぼすべての競技会において2種目までに変更する予定です。6月に実施している四日市中学校カーニバルについても同様の予定です。また、他地区から少しでも参加しやすいように、制限を参加人数ではなく参加種目数に変え、その数も増やす計画です。

今年度も、多くの選手が熱心に活動に取り組み、内数名は全国大会や東海大会へ出場し、三重県代表として健闘してくれました。高校の部では、全国高校総体において四日市商業高校の樋口七海さんが1000mと2000mに、清水彩加さんが1000mに出場しました。また、両2名と松原美空さん、栗飯原早希さんがチームとして4×1000mRにも出場しました。ハード面においては、2年前の10月にメイン競技場がオープンし、すぐ隣に400mのサブトラックも併設し、競技会や多くの競技者の練習拠点として利用されています。また、投てき用の光波計測器や走幅跳・三段跳用のパツコンと連動する距離測定装置の導入に加え、電子音スタート発信装置も導入の予定です。今年度は三重県選手権予選会や三重県高校新人大会等の県大会に加え、6月には関西医科学生陸上競技大会も四日市の競技場にて実施することが出来ました。県営競技場に続く公認競技場として、これからも施設設備の充実に努めていく所存です。

## 鈴鹿陸協

きました。まだまだ課題は山積していますが、生徒たちが少しでも陸上競技に打ち込めるよう創意工夫を重ねながら、普及の面においても取り組んでいきたい所存です。また、小学校関係においては、県にお願いをししてキッズアスリート陸上教室を10月(三重北小学校)と11月(泊山小学校)の2回にわたり開催していただき、大変好評をいただきました。

消えた逆走用スタートライン  
理事長を引き継いで今回3回目の改修工事となったAGF鈴鹿陸上競技場。5年に一度数千円から1億円近い経費をお願いして更新していくわけであるが、今回も鈴鹿市スポーツ課が中心となって予算が苦しい中、必要備品を揃えていただき、水がしみこんで浮いた走路と水たまりが出来る砂場周辺の整備、写真判定機の刷新などを進めていただき無事に4月から大会運営が出来ることとなった。それでも予算の都合上、実際には水がしみこんでくる部分を全面改修することは出来ず、5年に一度少しずつ面積を増やして、ひどいところから順番に直しているのが現状である。

その一方で前回改修時にバックストレートに逆走用の走路を増設していただいたのに、今回の更新ではレースをしないのであれば余分なラインは消しなさいと言う指導が陸連から入り、せっかく準備してもらったバックストレート側からのスタートラインやレーンナンバーもすべて無くなってしまった。ルール通りに従えば大会に關係の無い余分なラインとなるのだろうが、逆走がしたくても逆走の公認に写真判定機の設置条件が入ってくるとそれだけで数百万の予算がかかり地区陸協負担でもとても無理な話である。そもそもメ



練習でも使いやすい陸上競技場の建設やサッカーやラグビーに押されて競技場が使えない状態を少しでも改善する方向に力を貸してもらいたいものだ。

これから陸上競技の普及をどうしていくのか

教育現場から部活動の指導を地域へ移行する動きが中学校から始まる。アジアから留学している学生達が「日本は体育の授業だけではなく、部活動という形でいろいろなスポーツを誰もが経験することが出来るのでうらやましい」ということを話していたものだが、日本も例外ではなくなる。

いろいろと方針は出ているようであるが、何せ地域によって条件が違うので結局自分たちで解決するしかないさそうだ。

陸上競技の場合、種目数が多いので絶対的に指導者の数も専門的な用具も足りないのが現状だ。もう一つの面が大会を行うときの審判員と準備に要する補助員数の確保。今までボランティアで審判協力してくれた方達も高齢化してきており、次世代にどう繋いでいくかが大きな課題である。

種目別記録会の開催

そこで地区陸協として今までの記録会の形にこだわらずに、最低限の人数で運営できる種目別の記録会を実施していこうと計画中である。鈴鹿陸協専用使用として毎週土曜日の午前中競技場を解放し

でもらっているのです、その中で例えば100m記録会、同時進行でフィールド種目を1〜2種目実施。観客席や監督席も、より選手に近づけて設置し、ビデオカメラの撮影も許可しながら観客と選手が一体となって運営できれば陸上人気も確保できるし、参加して良かったというような競技会運営が出来ればお手伝いいただける方も確保できるのではないだろうか。海

外の運営方法から見れば魅せる陸上競技運営にはまだまだほど遠いが、日本方式にとられずにもっとエンターテインメント性を持たせたい。こういったことを実践していかなないと、プロ選手がほとんどおらず、営利団体ではないから大会運営で稼げないという赤字経営の日本の陸上界の未来は無いと思う。衛藤が企画して複数の県で行ったヨーロッパ方式を取り入れたジャンプフェスティバルは大変好評だった。実際に好記録も出ているので日本国内でも欧米的運営が出来るんじゃないかというめどが立った。鈴鹿陸協としてしっかりと取り組んでいきたい。

欧米で見てきた週末になると愛好者が集まって行う練習会や競技会。例えば棒高跳ならその人たちですべて準備をし、男女・年齢問わずにその高さから挑戦。跳べれば皆で拍手喝采、跳べなくて再チャレンジするときも皆で手拍子

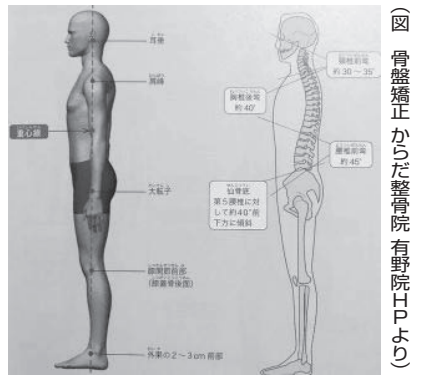
しながら名前を連呼。音楽も鳴らしながらハイタッチの連続で本当に競技を楽しんでいる。結果的にそれがプロにつながり、陸上競技場の観客席が満員となる所以なのだろう。

パフォーマンスを効率よく発揮するための重心の位置

昨年このコラムで身体を矢状面と前額面から見ると、各ポイントがまっすぐになっていて、その重心線上に重心がのっていることについて少し補足したい。今までアメリカで何回か陸上のクリニックを受けて、参加している日本のトップ選手がどのようなアドバイスを受けるのかを聞いていたが、ほぼ全員、姿勢、身体の硬さ、接地位置、ストライドの幅、コーチが指定する簡単な補強からウエイトトレーニングのポジションまで細部にわたってすべて矯正が入った。やはり、日本国内だけでトレーニングしているだけでは気がつかないポイントが多い。指示された通りに動いた方が選手達ももっと外国のトレーニングポイントを勉強すべきだと思う。海外へ行くたびに本物の陸上競技は奥が深いとつくづく思う。

このポジションの取り方であるが、最も簡単なチェック方法として選手を壁際に立たせて見るとよくわかる。

このポジションに当てはまっていれば無意識でも「気をつけ」の



(図) 骨盤矯正から整骨院有野院HPより

姿勢ができており

・両肩が自然に壁に付いている  
 ・腰(腰椎)の部分に肘を曲げて両手を差し込んだときに、手のひらが壁に触れている状態で両手の甲には脊柱起立筋が当たる。外国のトップ選手が男女問わずにバッチリとこの位置に乗っているのに対し、日本の多くの選手に見受けられるのは両肩が前方に出て猫背気味で、さらに壁と腰部に隙間があり身体が反っている。なのでこの姿勢をキープしたまま片方ずつの膝をあげさせようとする

と膝があげられない、またはどちらか片方に身体が逃げる状態が起ころ。つまりどこかの筋肉に拘縮が起こり、ポジションがずれているから思い通りのパフォーマンスが出せない状態で練習を積んでいるので、いずれ怪我をする可能性が高い。

例えば身体を前方へ移動させるのは身体全面に位置する筋肉が重心を移動させるが、股関節だけでは後方の大臀筋が前方移動に貢献する。姿勢矯正は基本がストレッチ

であり、その関節を動かしたい方向へ働く筋肉は強化し、姿勢を崩している方向に働く筋肉はストレッチすることが基本の考え方となる。そのために足首のアライメントの状態を評価し、周囲筋の緊張度合いや痛みなどをチェックして、そこから実際にどの筋肉を対象に直していくかを判断していく。

簡単なバランスの矯正方法(出力は60%を守る)

選手のコンドイションを整える最も簡単な効果的な操体法を紹介したい。

基本編1 ハムストリングから首まで



選手.. 曲げた膝を引き上げながら逆の足はつま先立ちを外へ開く

補助者.. 曲げた方の足首を持って引く、踵は内側に向かって抵抗をかける

効果.. ハムストリング、背筋群から首の付け根まで楽になっっている  
 伸ばしている足側(写真の場合左足側)の背筋

基本編2 骨盤上部を緩ませる



選手.. 立てた足を左右どちらに倒しやすいか確認して、先ほどと同じように行う

補助者.. 右足をそらせたときに圧痛がある場合は左足で行う。逆側の足で操作することでもう一方の足が上がりやすくなる。

効果.. 骨盤上部(腰方形筋)が緩むため、脚を反らす動



作が楽になる。この筋肉は緩みにくいので5回ほど行った方がよい。これでもかなり上がりやすくなるが、それでも左右差があったり、軽微な痛みが残っている場合は基本編3を行い施術する。

基本編3



選手…骨盤を左右にひねり、上げやすい方上げる。  
補助者…おしりの上部（やや腰よりの位置）から逆側（押し下げる側に）に抵抗をかける。バランスが悪い場合は逆側の手で骨盤を引き上げて選手とは逆回転にひねる。

効果…腹筋と背筋が緩み、脚を反らす動作がかなり楽に出来るようになる。  
それでも詰まる感覚がある場合は上げやすい方の足を上げさせ、太ももを

上から押さえて抵抗をかける。  
上がりにくい方の足は膝を伸ばしたまま下げさせ、膝の上の太ももを持って引き上げる方へ抵抗をかける。こうすれば完全に取り除くことができる。

基本編4



選手…両足をそろえた状態で足を伸ばす方向へ力を出す。  
補助者…両膝裏あたりを持ち、自分の方へ引きつける様にして選手の動きに抵抗をかける

効果…これで両足がそろって胸につく。つまり脚の引き上げ動作が楽になる。  
選手…上半身を左右にひねってみて、ひねりやすい方向へ骨盤を前に出すように

基本編5

大腰筋のバランスチェック



しながら身体をひねる。  
補助者…前に出る側の膝を軽く抵抗をかけて止め、反対側は膝の裏を持ち自分の方へ引く事で抵抗をかける。

効果…左右のひねりが同じになり、足が引き上げやすくなる。  
まだ、太ももの付け根などにつまり感が残る場合は足の指を回すとかかなり楽に足が上がるようになる。それでもしこりが残っている場合は基本編6の操作を行う。

基本編6

股関節周辺の筋肉の調整



選手…そのまま上げやすい方の足を上げ、上げにくい方は踏みつける方向へ力がかかる。  
補助者…下げる側の大腿部裏側から手を入れ、上げる側の膝上に手を置き、選手の動きに対し逆方向へ力がかかる。つまり補助者の手を折るような力のかけ方になる。

効果…骨盤周辺部の筋肉が整い、左右の足の引き上げがスムーズかつ同じ高さにそろえることが出来る。

基本編7

肩関節のゼロポジション



選手…斜め45度、地面から30センチほどの高さに肩関節が緩みやすいポイントがあるのそこで止める。  
補助者…選手の手首を持ってゆっくりと引く。30秒ほど引つ張れば肩周辺が劇的に軽くなる。

効果…肩の可動域が広がり、かなり動かしやすくなるので投擲選手や混成の選手の疲労回復に使える施術法。  
2023年度も出来ることから少しずつ陸上競技の発展に取り組んでいきたいと思う。

亀山陸協

本年度も新型コロナウイルス感染症拡大により、亀山市内で開催される陸上競技大会は県小学生亀山地区予選会を除き中止になりましたが、亀山市在住、在校の小・中・高校生が感染症対策をしながら有観客で行われた陸上競技大会で活躍してくれました。小学生では、JAC亀山の「菅瀬さん・打田さん・戸田さん・井上さん」が混合4×100mRで東海小学生陸上競技大会に出場、中学生では亀山中学校の「森 祐磨さん」が東海中学陸上競技大会・2年男子1500mで5位に、亀山高校の「前田 茜さん」が東海高校新人陸上競技大会・女子200mで7位になりました。また、鈴鹿高校の「林 里音さん（亀山中学校出身）」「山中千佳さん（桜浜中学校出身亀山在住）」の2名がチームのメンバーとして県高校駅伝で初優勝し、全国高等学校駅伝大会に出場されました。本人の努力を称えらるとともに、日頃から健全育成も含め児童、生徒の指導に当たっている指導者や先生方に敬意

を表し、感謝している次第です。66年間続いた歴史ある亀山市駅伝大会も67回・68回と中止となり感染症対策をしながら令和5年2月12日（日）開催するために準備を進めていきましたが、現在、新型コロナウイルスの感染者も徐々に増え始めインフルエンザの流行とともに第8波の感染拡大が懸念されることから、市民の安全、安心を最優先に考え今年度も開催を中止とさせていただきます。また、40年間続いていた亀山市スポーツ少年団の駅伝大会も2年間、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりましたが、今年度は鈴鹿川の河川敷をかり感染症対策をしながら令和5年1月15日（日）に開催することができました。

津陸協

本年度を振り返ると、新型コロナウイルスとの戦いを継続しながらも、日常を何とか取り戻そうとした一年でした。  
津地区および津市出身の選手では、日本室内陸上大阪大会で樋口七海さん（四日市商業高、U20・女子60m）が昨年のU18・女子60mからの連覇を成し遂げ、全国障がい者スポーツ大会では吉澤雄裕さん（みえのパラ、視覚障がい男子砲丸投）が優勝しました。また、前川鎮秀さん（津商業高）、亀井綾介さん（みえのパラ）や小川彪さん（九州共立大）、茂山千尋さん（鶴川第一小職員）、川北海万



梨さん(松阪商業高)、木下奏人さん(一志Beast)が全国規模の大会で入賞するなどの活躍をしました。

津地区では、5月に第1回津記録会・小学生大会津地区予選会を実施しました。新型コロナウイルスへの感染対策を施しながらの実施となりました。また、10月には、やはり感染症対策を施しながら第2回津記録会を実施しました。しかし、津スプリントトライアスロンは残念ながら3年連続で実施できませんでした。通常の記録会とは趣が違ふこの大会を楽しみにしていただいた選手や関係者の皆さんには大変申し訳ない気持ちでいっぱいです。

津地区では、本年度大きな動きがありました。それは、津市が海浜公園内陸上競技場の改修工事についての動き始めたことです。バブルの崩壊前から強く要望し続けてきた長年の念願事項です。まだまだ初期段階以前の段階ですが、なんとか実現できるよう、三重陸協のご指導を仰ぎながら実現に向けて取り組んでいきたいと思えます。

また、障がいのある方々が津記録会に熱心に参加してくださいませ。障がい者スポーツに詳しい方々からご教示をいただきながら障がいのある人もない人も共に陸上競技を楽しめる環境を創り出していきたく考えています。

世間ではウィズコロナという認識のもとで日常を取り戻そうとし

ています。津地区でも中学校では合同練習を再開しています。また、津陸協としても合同練習や陸上教室を開催していきます。小中高の連携や障がいのある方々との連携をさらに深め、津地区の陸上競技の普及や強化に努めていく所存です。

### 松阪地区陸協

12月18日曜日「みえ松阪マラソン2022」が開催されました。松阪地区を多くの審判員や参加ランナーに知っていただく良い機会になりました。松阪地区では「松阪シティーマラソン」の時代から長い歴史がある大会でしたが、公認のフルマラソンの大会に生まれ変わり、これからがとてもしみじみな大会となりました。

松阪地区は審判登録も少なく大きな陸協ではありませんが、選手・指導者が一丸となり今年度も中学生・高校生が活躍をみせてくれました。



スタート



松坂城



ベルファーム給水所



先頭フィニッシュ



した。県中学駅伝では三雲中学校が男女アベック優勝を果たすなど、これまでにない活躍もありました。全国大会でも多くの選手が活躍してくれましたので紹介します。

【国体】曾野雅(松阪商2年)少年女子Aやり投第4位 世古櫻紗(松阪商1年)少年女子B砲丸投第8位

【全国高校総体】曾野雅(松阪商2年)女子やり投第4位 川北海万梨(松阪商2年)女子砲丸投第6位

【U18大会】藤田唯愛(松阪商2年)女子ハンマー投第2位 川北海万梨(松阪商2年)女子砲丸投第3位 曾野雅(松阪商2年)女子やり投第3位 坂山成(松阪商1年)女子砲丸投第5位

【全国中学校】岡島奏音(多気中3年)女子走幅跳第5位

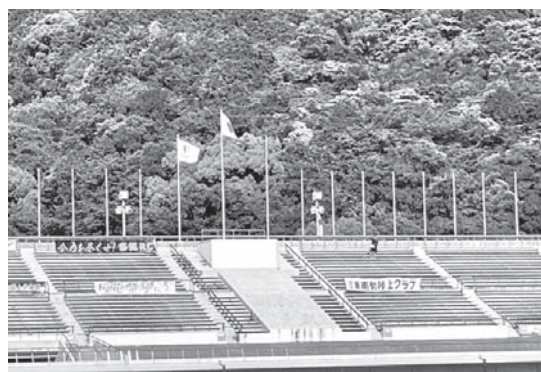
【U16大会】稲葉比呂(多気中3年)女子砲丸投第2位 岡島奏音(多気中3年)女子走幅跳第5位

これからも期待できる選手ばかりで、来年度が楽しみです。

### 伊勢度会陸協

今年度は3年ぶりに新型コロナウイルス感染症の影響を受けることなく計画通りの大会を実施でき、思うようにできなかった期間の鬱憤(うっぶん)を晴らすかのような活躍が見られた1年でもありました。

何と言っても中学生の活躍が目覚ましく、8月に福島県で行われ



た全日本中学校陸上競技大会女子4×100mRの小俣中学校(角田ルビイさん・辰巳ひよりさん・西嶋夏鈴さん・西嶋和奏さん)が48秒07の県中学新記録を樹立し見事に全国制覇を果たしてくれたのを筆頭に、桜浜中学校の上野颯勢くんが男子棒高跳で第2位、厚生中学校の北尾心映さんが女子100mで第4位、五十鈴中学校の木田充海くんが男子四種競技で県中学新記録を樹立して第6位に入賞しました。また、10月に愛媛県で行われたU16陸上競技大会では小俣中学校の東琉空くんが男子円盤投で優勝、五十鈴中学校(NAC)の山邊陽色くんが男子ジャベリックスローで第3位、女子ジャベリックスローで五十鈴中学校の中田陽菜さんが第4位、厚生中学校の小林勇斗くんが男子1000mで第8位に入賞しました。また、北尾さんはこの大会の女子100mで第3位に入賞した他、栃木県で行われた国体でも成年少年共通女子4×100mRの





第1走者として8位入賞に貢献してくれました。中学生だけではありません。高校生も徳島県で行われたインターハイで宇治山田商業高校の谷崎光くんが男子8種競技で第2位、皇學館高校の打田快生くんが男子110mHで第4位、宇治山田商業高校の中村里菜さんが女子走幅跳で第4位に入賞。U18では皇學館高校の中山俊介くんが男子三段跳で第6位に入賞しました。小学生も日産スタジアムで行われた全国小学生交流大会の6年男子100mでいすずUKの北尾琥太郎くんが第5位に入賞しました。また、NACを立ち上げた世古和さんも女子100mのマスターズ日本新記録を樹立し、自身の活躍の幅を広げており、幅広い年代で伊勢度会の選手達が活躍してくれました。

その一方で、「土日の部活動の地域移行」が中学校から現実のものとなってきました。伊勢度会地区には多くの小学校のクラブチームがありますが、中学校とクラブ

チームとの連携を進めていくのか、中学校の先生方が新たな形(自分でクラブチームを立ち上げる等)を作っていくのか新たな道を模索して行かなければなりません。また、部活動と切り離されると土日の審判に引率を兼ねて当たってくれている方の協力が得られない可能性も考えられます。また具体的などのように実施していくかの形は示されていますが、多くの審判を必要とする陸上競技にとつてはどのような形になるかが死活問題になりかねません。どのような形にせよ、これまで以上にみなさんのご協力が必要になります。よりよい形を目指し、クラブチームや各学校のみなさんとも話をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

### 鳥羽志摩陸協

#### 鳥羽志摩陸協

鳥羽志摩陸協では、ここ数年、「陸上競技の普及」「選手の育成・強化」「若手指導者の育成」「地域のクラブチーム、小中学校との連携、さらには他競技との連携」を今まで以上に図っていくことを柱に、一人でも多くの選手が全日中・IH・国体等で活躍できるように活動を進めてまいりました。その中で、東海中学校の小川莉緒さんが福島県で開催された第49回全日本中学校陸上競技選手権大会の女子砲丸投で4位入賞、愛媛県で開催された第53回U16陸上競技大会では、14m88で優勝し、中学2年

生ながら、すばらしい活躍がみられた年となりました。また、小川さんの所属する東海中学校は陸上部が常設ではない中で、野球と両立しての活躍でした。さて、鳥羽志摩陸協の特徴的な活動を3つ紹介させていただきます。最初に平成28年度から実施している「出前陸上教室!」の開催です。地区内の小学校4校で延べ9回開催し、児童の皆さんに「走る・跳ぶ・投げる」ことの楽しさを感じてもらおうことができました。また、新しい試みとして、三重陸協普及委員会から3名のスーパースリートを招いてキッズアスリート陸上教室(東海小学校)を開催させていただきました。子どもたちにも先生方にも大好評でした。次年度に向けても各小学校から多くの教室の依頼をいただいております。よりいっそう充実した教室にしていきたいと考えております。

次は、小学校教員を対象にした審判講習会・実技講習会の開催です。地域との連携も計りながら、陸上競技の楽しさを伝える活動ができました。また、例年通り志摩市・鳥羽市の小学校陸上記録会へ審判を派遣する事もできました。残念ながら志摩市での小学校記録会は令和4年度で終了となりますが、次年度以降は鳥羽志摩陸協主催で開催を検討しております。

### 伊賀陸協

#### 伊賀陸協

ようやく新型コロナウイルス感染症に関する競技会の中止、縮小を余儀なくされる状況が、今年度は回復に向かつて動き出した一年であったと感じています。まだまだ制限もかけていかななくてはいけない状況ではあるものの、陸上競技の大会が開催されるというありがたみを痛感しています。

小学校全体での協力を得て行われている三重県陸上大会伊賀市予選会も、クラブチームを含め小学校区単位で毎年たくさんの方が参加するため、名張陸上競技協会様にご協力いただき、メイハンフィールドにて、公認の競技会が今年度もなんとか開催することが出来ました。将来少しでも陸上に興味をもっていただける機会を設け、引き続き、参加していただけるように尽力していきたいと考えています。競技役員様の確保の問題や、公認の競技場を使用することで選手の競技レベル向上にも繋がると考えています。大会の開催にあたっては少し距離が遠くなりますが、各小学校、クラブチーム、保護者様には今まで以上に、ご理解ご協力を得ながら、今後も行なっていきたいと考えています。

最後に合同練習会の開催です。特に毎年恒例となった国府の浜での砂浜やクロスカントリーを活用した冬季合同練習会につきま

しては、コロナ禍ではありませんが100名ほどの地区内外の選手(特に小学生チームの参加)が参加し、盛大に実施する事ができました。多くの小学生選手たちが、この練習会を通じて競い合う事だけでなく、県内で陸上をする仲間としての繋がりがもつことができていると感じています。

### 名張陸協

#### 名張陸協

2021年度1年間延期になった東京オリンピックが無観客の下無事に開催されました。陸上を愛する我々には、画像を通して夢と感動を与えてくれました。チケットをゲットして生の姿を観ることはできませんでしたが、夢と感動を与えてくれた選手たちに感謝の気持ちで一杯です。また、今年年末には、コロナ禍の中、カタールでサッカーワールドカップが行われました。強豪のドイツとスペインを破り歓喜と涙の中試合は終りました。スポーツの持つ力は偉大でありアスリートに夢を抱かせてくれた瞬間でもありました。あの素晴らしい景色を見せてくれた選手たちに「感動をありがとう」と伝えたいです。まだまだ、終息不可能なコロナ禍ではありますが、スポーツを通じて子供たちに夢と希望を持って大きく成長してほしいと願っています。子供たちに生

用した冬季合同練習会につきま



きる力の糧として我々保護者や地域指導者は折に思っている昨今であります。それをいかに環境を整備して子供たちが安心して安全な環境で継承していくことができるかは、大人に課せられた課題ではないかと思っております。

名張市の人口は現在7万6千人余りです。この名張の地で公認陸上競技場を取得するには、想像以上の苦労が必要になってきます。今から5年前に4種公認グラウンドが関係各位の協力のもと15年かけて完成をいたしました。あれから5年を経過し、2023年3月が公認取得の2回目を迎えます。名張の人口も予想以上に減少し陸上競技場の公認申請の為に市税を使うことは、拒まれました。しかし、名張市陸上競技協会の会長を始め理事長、事務局方々が何とかこのまま以前のように公認を取り愛する地域の子供たちに未来の景色を覗いてほしいという一心の願いの下動き出しました。市政を変えお金の捻出方法をたくさんの方々と相談、面談して要望や熱意を意



見交換しました。

コロナ禍で、幸いにも日本陸上競技協会から1年の申請延期を頂くこともできました。また、公認陸上競技場のカテゴリーが新たに第4種L(ライト)が新設されました。内容は、走跳投の基本となるトラック、走高跳、走幅跳、砲丸投施設を必須の公認要件として棒高跳、円盤投、ハンマー投の施設を整えることが、公認要件から緩和されました。このライトになったことで公認陸上競技場のハードルが下がることが分かりました。この背景には、全ての人がライフステージにおいて陸上競技を楽しめる環境づくりの実現のためにすなわち小中学生の陸上競技の普及、育成そして地域の事情や特性を考慮した競技会を開催することができるとです。特筆すべきことは、フィールド内は、人工芝であることが条件でした。この条件を満たし名張市陸上競技場は、3月に第2回目の公認申請を受けることができるのです。

この小さな名張市の陸上競技場で年間5回の競技会を開催しています。三重県内から800人から1000人近いアスリートの皆さんがこのメイハンフィールドで自己記録を目指して参加してください。コロナ禍で他府県からの参加者は、制限をしての開催でもありましたが、当初は、1200人近い参加者もあり制限時間がかなり延長したことも思い出深いです。メイハンフィールド

では、ナイター設備もあり、また

駐車場も500台収容することもでき、たくさんの方が参加があります。この競技場で、各大会の標準記録を突破して全国大会に出場した選手も数多くいます。午前中は、常に追い風が吹き記録が狙いやすくなっています。また、スターティングブロックは、国立競技場仕様のオリンピックで使用されたブロックも設置済みです。さらに今年からは、走高跳のマットも新調をしました。この風光明媚な空気的美味しい名張市でアスリート一人ひとりが人に感動を与え新しい景色を視ていただくためにも名張市陸上競技協会は、常に努力を重ね邁進しております。

この陸上競技場から(名張クラブの1員)巣立った選手の中には、2023年1月1日ニューイヤーマン出場して優勝したHondaの川瀬翔矢選手がいます。皇學館大学出身で全国大学駅伝で17人抜きをして一躍有名になった選手でもあります。毎行われる名張クラブには、マスターズの仲間と共に汗を流した選手でもあります。また、同じニューイヤーマンに出場して4区を走ったNTNの辻野恭哉選手がいます。全国中学駅伝出場(名張北中)、全国高校駅伝出場(伊賀白鳳高校)3位入賞の選手もいます。マラソンにも挑戦をして、現在2時間09分の記録を持ち、今年も挑戦し続けている、名張を代表する選手でもあります。

2022年に活躍した選手は、

わが名張市が誇る近大高専の伊藤陸選手です。昨年は、第106回日本陸上競技選手権大会第38回U20日本選手権大会男子三段跳優勝16m57。また、第75回西日本学生選手権大会優勝16m85(大会新記録)。と活躍をされました。さらに2023年2月10日にアスタナ2023アジア室内陸上競技選手権大会日本代表選手として出場されます。

日本の大阪室内大会には、近大高専の長田怜時士君と中川陽司君がU20男子60mHに出場します。昨年度は、3年前から地域のク



ラブ活動として設立した名張ジュニアからは竹下諒君が標準記録を突破して茨城全国中学生大会に出場しました。植松君は、標準記録を突破したにも関わらず追い風参考になり苦渋の涙を流しました。

全日本中学校通信陸上競技大会三重大会に入賞した選手たちです。110mH 第1位 竹下 諒(桔梗が丘中) 14秒37 110mH 第4位 植松 大翔(桔梗が丘中) 15秒06

小学生においては、7月3日日清カップ第38回三重県小学生陸上



名張の地域スポーツで陸上競技を親しんでいるクラブに毎週火曜日と水曜日の5時から活動をしているばかりでクラブと選手育成を目指して活動している名張ジュニアがあります。

名張ジュニアは、毎週火曜日水曜日金曜日の17時から19時までメイハン陸上競技場で練習をしています。そのメンバーの集合写真です。

競技大会に出場して女子100m

14秒03で6位に入賞した北村環奈さんがいます。8月には、小学生東海選手権大会にも出場しました。9月11日に開催された第34回小学生陸上選手権大会では、13秒63の自己新記録を達成して第2位に入賞することができました。また、3年生のタイムレースにおいては、中川智貴君が10秒03のタイムで6位に入賞しました。ほとんどの選手が自己新記録を達成する事が出来て、監督として満足しております。

最後に本年度のメイハン陸上競技場での大会をご紹介します。

令和5年度競技会日程

(公認になります)

- 5月21日(日) 2023年第1回名張市陸上競技会兼第39回県小学生伊賀名張地区予選会 6月18日(日)
- 2023年第2回名張市陸上競技会 7月30日(日)
- 2023年第3回名張市陸上競技会 8月27日(日)
- 2023年第4回名張市陸上競技会 11月11日(土)
- 2023年第5回名張市陸上競技会 4月9日(日)
- 名張親善記録会 11月19日(日)
- ひなち湖マラソン大会 1月27日(土)
- 第5回名張市マラソン大会



### 尾鷲陸協

急激な過疎化や少子化は、尾鷲市にとって深刻な問題です。そのため、陸上競技を行う子どもたちは、年々減少傾向にあります。そのような中、「子どもは地域の宝物」「地域の子どもは地域で育てる」を合言葉に、本協会は活動しています。

地域の子どもたちが陸上競技に触れ合う機会を作り、走ることに楽しさや記録にチャレンジすることの醍醐味、自己記録を更新した時の達成感を感じ取ってもらえるよう、5年前から尾鷲市長距離選手権を開催しています。この大会は、日頃、陸上競技を行っている者はもちろん、野球・水泳・サッカー・バスケットボール等、他の競技を行う者にも積極的に参加していただき、地域の陸上競技人口の増加と三重市町対抗駅伝での順位アップをねらいとして開催しているものです。この大会がきっかけとなり、小学校までは他の競技を行っていた者が、中学校に入ってから陸上競技を行う者が出始めるなど、少しずつではありますが、大会開催の成果が出始めています。

競技は異なりますが、今シーズンは、中継ぎ投手として活躍し、最優秀中継ぎ投手のタイトルを最年少で獲得した阪神タイガースの湯浅京己選手は、尾鷲市出身です。湯浅選手は、尾鷲小学校4年生の

時から「尾鷲野球少年団」で野球を始めました。尾鷲市で生まれ育ち、全国を舞台に活躍する選手は、この地にいます。地域に明るい話題を届け、地域が元氣いっぱいになれるよう、本協会としてどのような取組が必要か、その方策を今後も模索しながら、地道な取組を継続していきたいと思えます。

本協会は小さな組織ですが、熱意ある若手の協会員の存在は強みです。今後とも協会活動へのご支援とご鞭撻のほど、よろしくお願ひします。

### 北牟婁陸協

極小規模な北牟婁陸協ですが、3年ぶりに開催予定の「美し国三重市町対抗駅伝」に向けて新体制で頑張っているところです。

地区内の行事については、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、3年ぶりに県小学生大会の予選会となる記録会を延期して実施することができました。その他の行事も、規模を縮小するなどしながらも開催できたことは評価できると思えます。

明るい話題としては、世古櫻紗（紀北中↓松阪商高1年）が、栃木国体の少年B女子円盤投で本意な結果ではあったものの、8位に入賞したことが挙げられます。

1年生ながら、激戦区の東海ブロックで円盤投で4位に入賞し全国インターハイ（徳島）に出場することもできました。指導する山

本浩武先生や全国トップレベルの先輩たちに囲まれて充実した練習に取り組み、砲丸投でも円盤投と同等以上に力をつけており、次の全国インターハイ（札幌）の女子フィールド優勝を目指す松阪商業高校のポイントゲッターの1人として成長していつてくれることを願ひたいと思ひます。

濱田茉裕（紀北中↓松阪商高3年）も東海インターハイの砲丸投で4位に入賞し、全国インターハイ（徳島）に出場することができました。高校卒業後は大阪体育大学に進学し、競技の継続とともに教職の道を目指したいという意向があり、競技力の向上とともに指導者としていつか戻ってきてくれることを願ひたいと思ひます。

また、昨年度この地から14年ぶりに箱根駅伝の8区を走った九嶋大雅（紀北中↓伊賀白鳳高↓日体大4年）は、今年度も8区にエントリーされながら、当日変更で走れませんでした。3年連続でニューイヤーズに出場しているコモディイイダ（埼玉県）に進路先を決めることができたので、新天地での頑張りにエールを送りたいと思ひます。

強化普及の面については、新型

コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、少しずつ行事を行える機会も増えてきました。尾鷲高校の垣内元宏先生が指導する紀北ACの活動を通して、小学生の子どもたちに陸上競技に取り組みきっかけを与えることが継続して行われています。

今後、明るい話題を少しでも多く提供できるように頑張つて行きたいと考えております。

### 熊野陸協

熊野陸上競技協会では、「熊野RC」のチームとして、小学生から中学生・高校生・一般の方まで一つのチームとして活動しています。現在、70人の選手が所属しています。

練習は、主に小学生が毎週土曜日の夕方に熊野市営グラウンドや木本中学校グラウンドで、毎週水曜日の夜には木本中学校グラウンドで行っています。また、随時、木本中学校グラウンドで主に高校生以上の選手がナイター自主練習を行っています。

本年度は、陸上部のない木本高校の選手が活躍しました。曾越祐志君（木本高校2年）が、3000mSCで三重県高校総体3位となり、東海高校総体まで駒を進めました。東海高校新人大会でも6位に入賞するなど、来年度の活躍が楽しみです。

中学生では、福田大貴君が、高跳で通信陸上大会3位に入賞し、



岳野ダンス



高見澤姿勢



福田健吾



集合写真

東海大会に出場しました。また、小学生では、福田健吾君（飛鳥小6年生）が、リレーカーニバル・県小選手権の走幅跳で優勝しました。

そして、昨年に引き続き「みんなで走ろう 2023」を開催しました。

高見澤安珠選手（リオデジャネイロオリンピック出場・矢渕中出身）や、大学高校などで活躍している、地元出身の選手が、地元の小中学生指導する企画でした。

陸上部のある中学校・高校が少ないことと、指導者が少ないことが課題ですが、お互いに連絡を取り合いながら小学生・中学生・高校生・一般と継続的な指導ができるようにしています。

今後、熊野市南牟婁郡地区で陸上競技の輪を広げられるように、熊野陸協として「熊野RC」を軸に活動していきたいと考えています。



各委員会等報告



昭和50年に開催された三重国体の記事の中に、「競技役員の不慣れによる運営で・・・」という記事を見つけたことがあります。おそらく競技進行に何らかの問題があつたのではと推察されます。当時は全国大会規模の運営はあまり経験がなく、困難な現状があつたというのも想像できますが・・・。

やはり選手・監督側としては、「如何なものか」となります。円滑に運営するということは、選手側にとっても、役員側にとっても必要不可欠なことです。

最近では、人間をサポートしてくれる機器が増え、より正確な審判ができるようになってきています。しかしながら、機器類ではできないことも沢山あります。それは、協力・協調するといったことです。また、事前に「察知する」「気づく」といったこともそれにあたります。競技場により、天候により、人数により、機材により、参加者のレベルにより等、様々な状況により、的確な判断や指示・行動が円滑な運営となります。

現在は情報網が確立されており、いつ何処でも必要な情報が得られます。しかしながら、それらを手に使わなければ単なる宝の持ち腐れのものになってしまいます。

審判ハンドブックにある「公認審判員の心得」を一部抜粋、紹介させていただきます。

・競技実例を体得し審判技術を磨く。

・規則の理解と研究、技術の向上に努める。

・各種の審判員を経験し、オールラウンドな審判技術を習得する。

・コンプライアンスを遵守し判定や運営にあたる。

このような文言が記載されています。当たり前のことばかりですが、常に基本を忘れず、準備を怠らず、円滑な競技運営にご協力ください。

強化委員会 JAAF

いつも強化委員会の活動にご理解ご協力頂きありがとうございます。

本年度は3年振りに国体が開催されました。三重国体とはカテゴリーも変わり、新たな一歩となる大会でしたが、天皇杯17位、皇后杯22位と健闘し、選手達は非常に前向きに試合をしてくれました。

その結果、男子8種目・女子5種目、女子リレーの計14種目に入賞を果たしました。

成年種目では世界選手権代表

第77回栃木国体結果

Table with columns: 種別, 名前, 所属, 種目, ラウンド, 記録, 結果, 得点, 備考. Includes results for 成年男子, 少年男子A, 少年男子B, 成年少年男子共通.

Table with columns: 種別, 名前, 所属, 種目, ラウンド, 記録, 結果, 得点, 備考. Includes results for 成年女子, 少年女子A, 少年女子B, 成年少年女子共通.

全国都道府県対抗駅伝競走大会 結果報告

男子 令和5年1月22日 12時30分スタート 広島市平和記念公園発着
総合 第25位 2時間21分55秒
監督 越井 武吉 (NTN)
コーチ 日比 勝俊 (皇學館大) 後藤 剛 (伊賀白鳳高)

Table with columns: 区間, 距離, 名前, 所属, 記録, 区間, 通過. Lists relay team members and their performance.

Table with columns: 選手, 名前, 所属. Lists relay team members.

女子 令和5年1月15日 12時30分スタート たけびしスタジアム京都発着
総合 第32位 2時23分18秒
監督 中村 隆代 (伊勢高)
コーチ 日比 勝俊 (皇學館大) 田中 将吾 (鈴鹿高)

Table with columns: 区間, 距離, 名前, 所属, 記録, 区間, 通過. Lists relay team members and their performance.

Table with columns: 選手, 名前, 所属. Lists relay team members.

や、頼もしく思います。女子4×m4位に入賞した北尾心映選手

の5000mW園田世玲奈選手 (NTN) が終始先頭を譲らず自己記録に迫るタイムで見事に優勝。

今シーズン日本選手権を制した三段跳の伊藤陸選手 (近大高専) が第2位入賞。110mHの藤井亮汰選手 (三重県スポーツ協会)、砲丸投の村上輝選手 (日本体育施設) は大会直前にアクシデントがありながらも第5位に入賞。

少年種目では2種目エントリーの前川鎮秀選手 (津商高) が走高跳2m09の自己新記録で第3位に、走幅跳では自己記録に迫る跳躍で第5位に入賞。U20日本選手権で優勝した800mの松本未空選手 (鈴鹿高) は自身が持つ県高校新記録を更新し、第4位に入賞。やり投では曾野雅選手 (松阪商高) が2年生ながらインターハイに続き第4位に入賞。円盤投の世古

櫻紗選手 (松阪商高) は悪天候の中粘り強く試合を展開し第8位に入賞。以上の4名が入賞を果たしてくれました。少年種目を育成する事は以前からの三重陸協強化の大きな狙いでもあり、今後に向けて、頼もしく思います。女子4×m4位に入賞した北尾心映選手

100mRでは成年の名倉千晃選手 (NTN) をリーダーに、インターハイ出場メンバーの清水彩加選手 (四日市商高)、樋口七海選手 (四日市商高)、全日本中学校陸上競技選手権大会で100m4位に入賞した北尾心映選手

持てる力を出し切り第8位に入賞

(厚生中)の少年選手を加え、予選を着実に通過し、準決勝ではアンカーの名倉千晃選手が他チームを猛追、決勝進出を決めました。決勝では安定したバトンワークで

持てる力を出し切り第8位に入賞

持てる力を出し切り第8位に入賞



年明けの全国都道府県対抗女子駅伝競走大会（京都）ではふるさと選手の一区、加藤綾華選手（ユニコロ）が区間21位の走りであり流れをつくり、その後の高校生、中学生区間でも健闘しましたが、少しずつ順位を落とし30位となりました。5区の池内彩乃選手（デンソー）が区間15位の力走で25位まで順位を上げてくれましたが、最終的には32位となりました。しかし、選手は本当にチームワーク良く頑張り、今後に向けて期待の持てる内容であったと思います。翌週の男子駅伝（広島）では、1区で35位とやや出遅れましたが、その後の4区間でじりじりと順位を上げ5区終了時では20位と健闘しました。最終的には25位でしたが、4区の鈴木千翔選手（伊賀白鳳）、5区の古橋希翁選手（伊賀白鳳）がともに区間11位、中学生区間の2区加藤結羽選手（三雲中）が区間14位、6区廣瀬聡真（多気中）が区間26位と健闘してくれました。少年選手の健闘は今後に向けて楽しみな材料となりました。

三重陸上競技協会の組織の中で、これからの強化を考えていきますと、やはり各部署の連携が一番大切であると思います。そして「一人の選手を育てるためには、普及という幅広い土台の上に強化がある。」この考えを忘れることなくしっかりと持ちながら実践していただきたいと思います。また練習会や指導者講習会等をこまめに開催し、三重陸協独自の理論を築き上

げてほしいと思います。強化委員会も新しいスタッフで活動を始めて頑張ってくれています。今後も強化の活動にご理解、ご声援をよろしくお願いいたします。

コロナウイルス感染症が終息したわけではありませんが、本年度は以前とほぼ同様の競技会が開催され、多くの県記録が更新されました。次期シーズンにおいても、選手の皆さんのより一層の活躍を願っています。

現在では、コンピュータシステム等が充実し、競技における記録の集計・並び替えや次ラウンドへの進出者、組・レーン等における作業も迅速・正確にできることが当たり前となっています。ただ、万が一機械が不具合を起こしても、しくみやルールを熟知して対応できる備えも必要でしょう。例えば、パソコンを使つての番組編成に関する作業ができなくなったとしても、次ラウンド進出者のランキングやレーンの割り当て方法等もきちんと理解して、紙を使つて作業を続行できる能力は日頃から養つておく必要があります。これからのバックアップを念頭において運営を心がけていく所存です。

**情報委員会**  
JAAF  
MIE

**普及委員会**  
JAAF  
MIE

日頃は普及委員会の活動に、ご理解とご協力を賜り心より御礼申



「強化委員会との連携重視」「地区における普及活動の推進」「指導者の育成」の三本柱を重点目標に掲げ、今年度も取り組みを進めてきました。

今年度においては、より多くの子どもたちに陸上競技に接する機会を提供することに特に重点をおいて活動しました。陸上競技未経験者の親子を対象とした「三重とこわか国体レガシープロジェクト」では、県内各地より500組以上の親子が参加し、4回にわたって陸上競技の楽しさや速く走るコツをそれぞれの発達段階に応



じて学ぶ機会となりました。また、コロナ禍のため中断していた「キッズアスリート陸上教室」も本年度から再開し、新たな形で陸上教室にも取り組み、従来の4倍となる8校で実施しました。アスリートのパフォーマンスに目を輝かしている子どもたちの姿がたくさん見られ、約1500名の児童に動機づけを行うことができました。来年度以降も陸上競技に触れる機会の少ない小学生に陸上競技の楽しさを伝える活動として、「地区における普及活動の推進」を、県内各地で開催していきたいと考えています。

また、「指導者の育成」については、陸上競技の指導においても正しい知識や資格が求められる中、JAAF公認ジュニアコーチ養成講習会に60名の申し込みをいただきました。ぜひ各地区における普及活動にも積極的に活用していただければと考えています。

来年度以降もたくさん子どもたちに夢を与え、陸上競技に対する意欲や興味・関心を高めるとともに、「選手の可能性の広がり」を大切に、息の長い選手の育成のために努力してまいりますので、今後ともご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

**技術委員会**  
JAAF  
MIE

- ⑤ 競技進行中は、全般的に観察し、絶えず審判長や総務、関係部署と連携を図り協議を重ね、競技の円滑な進行を図る。
- 【競技場および長距離走路の公認終了期日】**
- (1) 三重交通Gスポーツの杜伊勢 1種（クラス2） 2027年3月31日
  - (2) 三重交通Gスポーツの杜伊勢（第2競技場） 3種 2026年4月10日
  - (3) 三重交通Gスポーツの杜伊勢（投てき場） 2026年4月10日
  - (4) 四日市中央（陸） 2種 2025年8月28日
  - (5) 四日市ハーフマラソン（今後検定予定）
  - (6) AGF鈴鹿陸上競技場 3種 2023年3月検定予定
  - (7) 伊勢ハーフマラソン（ハーフ・10km・5km） 2025年5月31日
  - (8) メイハンフィールド陸上競技場4種L（延期中） 2023年3月検定予定
  - (9) 松阪マラソン 2025年4月30日
- ※競技場の新規公認及び継続の時、申請者は公認期間が切れる3か月前より、申請書を提出できます。尚、公認を廃止にする場合は、必ず廃止届を日本陸連に提出して下さい。公認期間は、陸上競技場、長距離走路、



競歩路ともに5年間です。

※各地区でマラソン大会の企画及び競技者が増加しています。国際大会や招待選手が出場する

場合、自転車計測が必要となりますので、技術委員会までご連絡下さい。

※2020年から公認競技場として、4種L(ライト)が追加されました。砲丸、走幅跳、走高跳の施設が必要です。新規で陸上競技場や長距離走路を設置する場合は、技術委員会までご相談下さい。



本年度の医事委員会の活動に、温かいご理解とご協力をいただき、深く御礼申し上げます。

本年度も、新型コロナウイルス感染症のため、いくつかの制限がある中で大会開催でしたが、小学生から一般全ての年齢層の大会及び県内大会、東海大会を対象に、年間13大会延べ23日間、現場での救護活動を行ってまいりました。今シーズンも、重大な事故、ケガ等は無く、無事予定を終了することが出来ました。

但し、例年行っているトレーナーセッションでのトレーナー活動に関しては、人と人との直接接触があるため、まだ依然として感染の危険性があることから、これもまた活動を停止させていただきました。選手をはじめ、多くの関係者の方々に、ご迷惑とお手数

をお掛けしましたこと、お詫びいたします。

また、今後もまだまだコロナ対策が必要となる生活の続くことが予想されます。時間の経過とともに、感染症も生活状況もどんどん変化していきますので、関係者の皆様も最新の知識と情報収集のため、常にアンテナを張って油断なくお過ごしいただきたく思います。

来年度も、理学的(トレーナー的)な立場からの活動が難しい状況が続くような様子ではありますが、今以上のスタッフのスキルアップをはかり、選手の方々が安心して安心して臨める大会づくりに尽力して参りたいと思います。尚、トレーナー活動が可能となれば、トレーナーセッションは、競技場トレーニングルームに開設させていただきます。どうぞお気兼ねなくご利用下さい。スタッフ一同お待ちしております。



これからの、医事委員会の活動に、ご理解とご協力、そしてご参加いただけますようよろしくお願い申し上げます。

日頃は各大会の審判・競技運営等ご協力頂きありがとうございます。今年度は三年ぶりの新型コロナウイルスの感染防止による大会中止が明けた開催となる中、大会審判員の連携努力により従来通りのスムーズな大会運営が行われました。また、今年度は東海選手権

大会のほか新たな大会の実施であった全国規模の実業団プレミア大会やジャンプファステイバル等今までにない趣向による大会も

しっかりと行うことができました。さらには年末に三重県で初めて行われたフルマラソン競技も松阪市や松阪地区陸協の準備協力のもと無事に大会を終了することができました。当日は三重陸協としても

多くの公認審判員や大会役員が参加しましたが、審判員の仕事はいつものロードレースや駅伝大会とほぼ同じというものの、初めてのフルマラソン競技で唯一の違いは長時間であったということ、さらに参加選手は一流競技者から一般市民ランナーや愛好家までという大会であったため、厳しく審判することと寛大に楽しさを享受し合えるなど審判をすることが求められるなど大変な仕事であったと思います。審判員や補助員の生徒も朝六時集合の夕方六時過ぎ解散の方や昼食やトイレ休憩もしっかりとることができなかつたなどの運営課題もありましたが、今後これらをしっかり取りまとめ次回に活かせるようにしていきます。

審判種別	男	女	計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
S級	36 (44)	1 (1)	37 (45)				1%	4%	6%
A級	66 (103)	8 (9)	74 (112)			3%	8%	9%	2%
B級	189 (271)	48 (113)	237 (384)	11%	17%	13%	12%	11%	3%
合計	291 (418)	57 (123)	348 (541)	11%	17%	16%	21%	24%	11%

さて、今年度の公認審判員登録は、私の手元にある登録カードの集約では次の表のようになっていきます。カッコ内の数字は昨年度の統計です。ひとつの大会で一日に必要な審判員数は、200人前後です。今年度は約350人の審判員登録者がいます。その内一番多い年代は全体の4分の1となる60

歳代です。それと一番少ない年代の20歳代ということをお合わせて考えると将来益々審判の高齢化が心配になってきます。また女性の審判員の方が16%と少なく、今後女性しかできない審判の仕事ができるかどうか不安になっています。

参加率	審判員数	全審判員数の%
参加90%以上	審判員数 8名	全審判員数の2.4%
80%代	22名	6.6%
70%代	34名	10.1%
60%代	34名	10.1%
50%代	39名 (累計150名)	11.6%
40%代	82名 (同232名)	24.5%
1桁の参加	116名	34.7%

さらに次の表にあるようにトックシーズンで三重陸協主催の大会日数が31日間、その90%以上大会に参加した審判員は8名でした(集約は22日間を抜粋)。単純に200人前後の審判員を確保するには、登録審判員数の最低でも40%以上の方の参加が必要となります。現在、審判員の大会参加数がぎりぎりの競技運営となっておりますので、次年度も一人でも多くの審判員の方の大会参加をお願い

します。公認審判員の仕事は、「選手の夢を叶える仕事」であると思えます。選手のひたむきな思いや強い意志、決意でチャレンジする選手を最後にしっかりと応援できるのは公認審判員だけではないでしょうか。

日本陸連審判ハンドブックの「公認審判員の心得」には次のような内容(抜粋)があります。  
\*公認審判員は、競技者のよき指導者として高い識見を有し、常に競技規則を研鑽するとともに正しい審判技術を身につけ、公正で適切な審判ができ、競技会の円滑な運営を図るために協力する心掛けが必要である。  
\*審判にあたるべき姿勢は、競技者が早く競技に参加できるように接し、不快の念を抱かせないように態度は慎むべきである。(中略)私語または他人に無駄な話しかけをしないように心がける。また椅子に座っているときに、足組みまたは腕組みをして審判をするような行為や、首を傾げる様な動作は慎む。  
\*競技会には、初心者参加が多い競技会、経験者の多い競技会など競技会の内容の相違する競技会が数多くある。参加する競技者の質が相違するので、すべての競技会が同じ運営方法では、競技者にとって不満の残る競技会になってしまう。臨機応変な姿勢をもつことも大切である。競技者に対する接し方は、公平で親切が基本でなければならぬが、競技者の緊張状態や平常な心理状態を少しでも緩和する雰囲気を作り、審判員の言動や態度などに留意すれば、自己記録を出せるような競技会運営は必ずできるはずである。審判員の心がけひとつであらうことを忘れずに審判にあたってほしいものである。  
これらの「公認審判員の心得」は審判員の心意気・決意を示すものであると思います。そのような中で目の前の選手が自身の夢を叶えたとき、公認審判員も同じように『夢』を享受し合えたような満足感があるのではないのでしょうか。



公認審判員の夢は、例えばプロスポーツがある野球やサッカーではその公認審判員になること自体が夢であることが多いと思います。実際、野球やサッカーは公認審判員を養成するための専門学校があるほどです。しかし、陸上競技では部活の顧問や民間のクラブコーチとなって、指導の傍ら公認審判員になることが多く、「審判員の夢」となるとは審判員を継続してやっていると教える子の成長ぶりや、目の前にいる他の選手の素晴らしい動きをすぐそばで体感して初めて気付くという『夢』が後からやってきて気付くことが多いのが陸上競技の審判員の夢だと思います。

しみを共に乗り越えてきました。このような選手たちの思いに添えるべく、多くの方にご尽力いただき、今年度は全ての大会が感染症対策をしっかりと行いながら開催できたことを大変嬉しく思います。大変な状況ではありましたが、多大なご支援をいただき、福島県で行われた「全日本中学校陸上競技選手権大会」も開催することができました。過酷な状況の中でも、選手たちは福島県で素晴らしい活躍を見せてくれました。女子4×100mRの小俣中学校が優勝（三重県中学新記録）、男子棒高跳の上野颯勢さん（桜浜中）が第2位、女子100mの北尾心映さん（厚生中）が第4位、女子砲丸投の小川莉緒さん（東海中）が第4位、女子走幅跳の岡島奏音さん（多気中）が第5位、男子四種競技の木田充海さん（五十鈴中）が第6位と6種目の選手が入賞を果たしてくれました。

また、岐阜県で行われた「東海中学校総合体育大会」においても4種目の優勝をはじめ、多くの入賞があり、インパクトのある結果を残してくれました。

また、3年生の多くの選手が中学校生活の最後の大会であり、歴史ある学校対抗戦となる大会でもある「三重県中学校陸上競技大会」を3年ぶりに実施することができました。3年間努力を続けてきた選手にとってこの大会は、高校での陸上競技につながることも、かけがえのない大会となりました。選手はもちろん指導者としても有意義で価値のある大会となりました。

令和5年度から、「運動部活動の地域移行」に関わって「全日本中学校陸上競技選手権大会」が大きく変わっていきます。来年度から地域スポーツ団体登録の選手も大会に参加できることとなります。それに伴い、東海大会、県大会、地区大会も同様になります。様々な変化のある状況の中ですが、今年度以上に全国での活躍、全体のレベルアップを目指します。また、指導者の育成にも力を入れて取り組んでいきます。より多くの中学生が陸上競技を好きになり、将来全国や世界で活躍できる選手を育成・発掘していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

令和4年も新型コロナウイルスの収束は見えず、昨年同様に感染対策を講じながら大会運営を強化を進めています。参加者の中から、愛媛の地で活躍する選手が多く出てくれることを大いに期待しています。

令和5年度から、「運動部活動の地域移行」に関わって「全日本中学校陸上競技選手権大会」が大きく変わっていきます。来年度から地域スポーツ団体登録の選手も大会に参加できることとなります。それに伴い、東海大会、県大会、地区大会も同様になります。様々な変化のある状況の中ですが、今年度以上に全国での活躍、全体のレベルアップを目指します。また、指導者の育成にも力を入れて取り組んでいきます。より多くの中学生が陸上競技を好きになり、将来全国や世界で活躍できる選手を育成・発掘していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

令和5年度から、「運動部活動の地域移行」に関わって「全日本中学校陸上競技選手権大会」が大きく変わっていきます。来年度から地域スポーツ団体登録の選手も大会に参加できることとなります。それに伴い、東海大会、県大会、地区大会も同様になります。様々な変化のある状況の中ですが、今年度以上に全国での活躍、全体のレベルアップを目指します。また、指導者の育成にも力を入れて取り組んでいきます。より多くの中学生が陸上競技を好きになり、将来全国や世界で活躍できる選手を育成・発掘していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

令和5年度から、「運動部活動の地域移行」に関わって「全日本中学校陸上競技選手権大会」が大きく変わっていきます。来年度から地域スポーツ団体登録の選手も大会に参加できることとなります。それに伴い、東海大会、県大会、地区大会も同様になります。様々な変化のある状況の中ですが、今年度以上に全国での活躍、全体のレベルアップを目指します。また、指導者の育成にも力を入れて取り組んでいきます。より多くの中学生が陸上競技を好きになり、将来全国や世界で活躍できる選手を育成・発掘していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

令和5年度から、「運動部活動の地域移行」に関わって「全日本中学校陸上競技選手権大会」が大きく変わっていきます。来年度から地域スポーツ団体登録の選手も大会に参加できることとなります。それに伴い、東海大会、県大会、地区大会も同様になります。様々な変化のある状況の中ですが、今年度以上に全国での活躍、全体のレベルアップを目指します。また、指導者の育成にも力を入れて取り組んでいきます。より多くの中学生が陸上競技を好きになり、将来全国や世界で活躍できる選手を育成・発掘していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

令和5年度から、「運動部活動の地域移行」に関わって「全日本中学校陸上競技選手権大会」が大きく変わっていきます。来年度から地域スポーツ団体登録の選手も大会に参加できることとなります。それに伴い、東海大会、県大会、地区大会も同様になります。様々な変化のある状況の中ですが、今年度以上に全国での活躍、全体のレベルアップを目指します。また、指導者の育成にも力を入れて取り組んでいきます。より多くの中学生が陸上競技を好きになり、将来全国や世界で活躍できる選手を育成・発掘していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

令和5年度から、「運動部活動の地域移行」に関わって「全日本中学校陸上競技選手権大会」が大きく変わっていきます。来年度から地域スポーツ団体登録の選手も大会に参加できることとなります。それに伴い、東海大会、県大会、地区大会も同様になります。様々な変化のある状況の中ですが、今年度以上に全国での活躍、全体のレベルアップを目指します。また、指導者の育成にも力を入れて取り組んでいきます。より多くの中学生が陸上競技を好きになり、将来全国や世界で活躍できる選手を育成・発掘していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

令和5年度から、「運動部活動の地域移行」に関わって「全日本中学校陸上競技選手権大会」が大きく変わっていきます。来年度から地域スポーツ団体登録の選手も大会に参加できることとなります。それに伴い、東海大会、県大会、地区大会も同様になります。様々な変化のある状況の中ですが、今年度以上に全国での活躍、全体のレベルアップを目指します。また、指導者の育成にも力を入れて取り組んでいきます。より多くの中学生が陸上競技を好きになり、将来全国や世界で活躍できる選手を育成・発掘していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

令和5年度から、「運動部活動の地域移行」に関わって「全日本中学校陸上競技選手権大会」が大きく変わっていきます。来年度から地域スポーツ団体登録の選手も大会に参加できることとなります。それに伴い、東海大会、県大会、地区大会も同様になります。様々な変化のある状況の中ですが、今年度以上に全国での活躍、全体のレベルアップを目指します。また、指導者の育成にも力を入れて取り組んでいきます。より多くの中学生が陸上競技を好きになり、将来全国や世界で活躍できる選手を育成・発掘していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

令和5年度から、「運動部活動の地域移行」に関わって「全日本中学校陸上競技選手権大会」が大きく変わっていきます。来年度から地域スポーツ団体登録の選手も大会に参加できることとなります。それに伴い、東海大会、県大会、地区大会も同様になります。様々な変化のある状況の中ですが、今年度以上に全国での活躍、全体のレベルアップを目指します。また、指導者の育成にも力を入れて取り組んでいきます。より多くの中学生が陸上競技を好きになり、将来全国や世界で活躍できる選手を育成・発掘していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

令和5年度から、「運動部活動の地域移行」に関わって「全日本中学校陸上競技選手権大会」が大きく変わっていきます。来年度から地域スポーツ団体登録の選手も大会に参加できることとなります。それに伴い、東海大会、県大会、地区大会も同様になります。様々な変化のある状況の中ですが、今年度以上に全国での活躍、全体のレベルアップを目指します。また、指導者の育成にも力を入れて取り組んでいきます。より多くの中学生が陸上競技を好きになり、将来全国や世界で活躍できる選手を育成・発掘していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

令和5年度から、「運動部活動の地域移行」に関わって「全日本中学校陸上競技選手権大会」が大きく変わっていきます。来年度から地域スポーツ団体登録の選手も大会に参加できることとなります。それに伴い、東海大会、県大会、地区大会も同様になります。様々な変化のある状況の中ですが、今年度以上に全国での活躍、全体のレベルアップを目指します。また、指導者の育成にも力を入れて取り組んでいきます。より多くの中学生が陸上競技を好きになり、将来全国や世界で活躍できる選手を育成・発掘していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

令和5年度から、「運動部活動の地域移行」に関わって「全日本中学校陸上競技選手権大会」が大きく変わっていきます。来年度から地域スポーツ団体登録の選手も大会に参加できることとなります。それに伴い、東海大会、県大会、地区大会も同様になります。様々な変化のある状況の中ですが、今年度以上に全国での活躍、全体のレベルアップを目指します。また、指導者の育成にも力を入れて取り組んでいきます。より多くの中学生が陸上競技を好きになり、将来全国や世界で活躍できる選手を育成・発掘していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

令和5年度から、「運動部活動の地域移行」に関わって「全日本中学校陸上競技選手権大会」が大きく変わっていきます。来年度から地域スポーツ団体登録の選手も大会に参加できることとなります。それに伴い、東海大会、県大会、地区大会も同様になります。様々な変化のある状況の中ですが、今年度以上に全国での活躍、全体のレベルアップを目指します。また、指導者の育成にも力を入れて取り組んでいきます。より多くの中学生が陸上競技を好きになり、将来全国や世界で活躍できる選手を育成・発掘していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

令和5年度から、「運動部活動の地域移行」に関わって「全日本中学校陸上競技選手権大会」が大きく変わっていきます。来年度から地域スポーツ団体登録の選手も大会に参加できることとなります。それに伴い、東海大会、県大会、地区大会も同様になります。様々な変化のある状況の中ですが、今年度以上に全国での活躍、全体のレベルアップを目指します。また、指導者の育成にも力を入れて取り組んでいきます。より多くの中学生が陸上競技を好きになり、将来全国や世界で活躍できる選手を育成・発掘していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

令和5年度から、「運動部活動の地域移行」に関わって「全日本中学校陸上競技選手権大会」が大きく変わっていきます。来年度から地域スポーツ団体登録の選手も大会に参加できることとなります。それに伴い、東海大会、県大会、地区大会も同様になります。様々な変化のある状況の中ですが、今年度以上に全国での活躍、全体のレベルアップを目指します。また、指導者の育成にも力を入れて取り組んでいきます。より多くの中学生が陸上競技を好きになり、将来全国や世界で活躍できる選手を育成・発掘していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

令和5年度から、「運動部活動の地域移行」に関わって「全日本中学校陸上競技選手権大会」が大きく変わっていきます。来年度から地域スポーツ団体登録の選手も大会に参加できることとなります。それに伴い、東海大会、県大会、地区大会も同様になります。様々な変化のある状況の中ですが、今年度以上に全国での活躍、全体のレベルアップを目指します。また、指導者の育成にも力を入れて取り組んでいきます。より多くの中学生が陸上競技を好きになり、将来全国や世界で活躍できる選手を育成・発掘していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

令和5年度から、「運動部活動の地域移行」に関わって「全日本中学校陸上競技選手権大会」が大きく変わっていきます。来年度から地域スポーツ団体登録の選手も大会に参加できることとなります。それに伴い、東海大会、県大会、地区大会も同様になります。様々な変化のある状況の中ですが、今年度以上に全国での活躍、全体のレベルアップを目指します。また、指導者の育成にも力を入れて取り組んでいきます。より多くの中学生が陸上競技を好きになり、将来全国や世界で活躍できる選手を育成・発掘していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

令和5年度から、「運動部活動の地域移行」に関わって「全日本中学校陸上競技選手権大会」が大きく変わっていきます。来年度から地域スポーツ団体登録の選手も大会に参加できることとなります。それに伴い、東海大会、県大会、地区大会も同様になります。様々な変化のある状況の中ですが、今年度以上に全国での活躍、全体のレベルアップを目指します。また、指導者の育成にも力を入れて取り組んでいきます。より多くの中学生が陸上競技を好きになり、将来全国や世界で活躍できる選手を育成・発掘していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

### 中体連

この3年生は新型コロナウイルス感染症拡大のため、中学校入学当初から休校になり、多くの大会が中止となりました。今年度も感染拡大により、大会が開催されるのかという不安や練習場所や練習時間の制限がある中、選手たちは直向きの努力を重ね、悔しさや苦

「ジュニアオリンピックカップ U16陸上競技大会」では、男子円盤投の東琉空さん（小俣中）と女子砲丸投の小川莉緒さん（東海中）の優勝をはじめ、7種目の入賞を果たすことができ、次年度の活躍が期待できる選手も多く出てきてくれたことを喜ばしく思います。12月に滋賀県で行われた「全国

中学校駅伝大会」には、男子は三雲中学校が2年連続2回目、女子も三雲中学校が初出場を果たし、全国という大舞台で堂々たる走りを見せてくれました。

また、3年生の多くの選手が中学校生活の最後の大会であり、歴史ある学校対抗戦となる大会でもある「三重県中学校陸上競技大会」を3年ぶりに実施することができました。3年間努力を続けてきた選手にとってこの大会は、高校での陸上競技につながることも、かけがえのない大会となりました。選手はもちろん指導者としても有意義で価値のある大会となりました。

令和5年度から、「運動部活動の地域移行」に関わって「全日本中学校陸上競技選手権大会」が大きく変わっていきます。来年度から地域スポーツ団体登録の選手も大会に参加できることとなります。それに伴い、東海大会、県大会、地区大会も同様になります。様々な変化のある状況の中ですが、今年度以上に全国での活躍、全体のレベルアップを目指します。また、指導者の育成にも力を入れて取り組んでいきます。より多くの中学生が陸上競技を好きになり、将来全国や世界で活躍できる選手を育成・発掘していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

### 高体連

令和4年も新型コロナウイルスの収束は見えず、昨年同様に感染対策を講じながら大会運営を強化を進めています。参加者の中から、愛媛の地で活躍する選手が多く出てくれることを大いに期待しています。

令和5年度から、「運動部活動の地域移行」に関わって「全日本中学校陸上競技選手権大会」が大きく変わっていきます。来年度から地域スポーツ団体登録の選手も大会に参加できることとなります。それに伴い、東海大会、県大会、地区大会も同様になります。様々な変化のある状況の中ですが、今年度以上に全国での活躍、全体のレベルアップを目指します。また、指導者の育成にも力を入れて取り組んでいきます。より多くの中学生が陸上競技を好きになり、将来全国や世界で活躍できる選手を育成・発掘していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

**ご協賛をいただいた企業**

- 更スポーツ
- スポーツショップ四日市
- ぎゅーとら
- NTN株式会社
- 株式会社デンソー
- 長谷川体育施設株式会社
- アシックスジャパン株式会社
- 株式会社 ニシ・スポーツ
- 株式会社 クレーマージャパン
- 皇學館大学
- 日本体育施設
- ミズノ株式会社
- 三重県民共済
- ユタニペーカリー
- 住友電装株式会社
- 株式会社 エポリューション
- 株式会社 トーカイ
- 株式会社 セレモ
- 株式会社 トンボ 名古屋支店
- 管公学生服株式会社

(敬称略)

**令和3年度 日本陸上競技連盟栄章授与者**

◇ 高校優秀指導者章  
(高校生競技者または、18歳未満の勤労競技者の指導者として、5年以上の指導歴、実績のある30歳以上で特に功労のあった者に贈与する)  
**平井 裕司** (上野高等学校)

◇ 中学校優秀指導者章  
(中学生競技者の指導者として5年以上の指導歴、実績のある30歳以上で、特に功労のあった者に贈与する)  
**川西 剛志** (緑が丘中学校)

◇ 高校優秀選手章  
(高校生競技者または18歳未満の勤労競技者として優秀な者に贈与する)  
**小河 彪** (久居高等学校)

◇ 中学校優秀選手章  
(中学生競技者として優秀な者に贈与する)  
**浅井 琥桃** (伊勢宮川中学校)